

令和4年度 第1回玉野市総合教育会議 議事概要

総合政策課作成

日時 令和4年4月25日（月）13:30～14:40 玉野市役所3階 大会議室

出席者 【構成員】 市長 柴田 義朗
教育長 妹尾 均
教育長職務代理者 太宰 実千代
教育委員 加藤 正枝
教育委員 三宅 英次
教育委員 二宮 崇

【事務局】 教育次長、教育総務課長、学校教育課長、就学前教育課長、社会教育課長、教育総務課長補佐、政策部長、総合政策課長、総合政策課長補佐

1. 協議事項

- (1) 「玉野市立学校適正規模化計画」について
- (2) その他

2. 議事概要

市長 (市長あいさつ)

教育は子どもたちのためということはもちろんだが、地域にとって魅力のある教育を行っていくことは地域の魅力づくりの一環でもあると思う。魅力的な教育を行っていれば地域の魅力を感じて、そこに住んでみたい、子どもを学校に通わせたいといったことにもつながると思っており、そういった意味でも教育の力を高めていくことがとても大切なことだと思っている。一方で現在の当市の大きな課題として学校の適正化があがっている。本日もその計画についてお話をいただくことになる。適正規模化ということで人口減少、少子化に伴うものではあるが、それをネガティブに捉えるのではなく、一つの契機として前向きに捉えて、よりよい教育を作っていくというスタンスで臨んでいければと考えている。

二宮委員 (新任委員挨拶)

市長 議事(1)「玉野市立学校適正規模化計画」について、ここまでの進捗の確認と、今後の進め方について教育委員会から協議を求められたので、教育委員会から説明をお願いしたい。

教育長 本市の児童・生徒数については、昭和57年度から令和2年度の40年間で11,575人から3,563人と1/3以下まで減少している状況である。一方で、小中学校の数はピーク時の分校も含めての23校から現在21校と2校減となっている。住民基本台帳を元にし

た推計によると、ここ20年間のうちに小学校14校中9校で複式化、中学校7校中5校で1学年1学級化することが想定されている。

教育委員会では児童・生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、切磋琢磨しながら学んでいくということが重要であり、そのためには一定数以上の児童・生徒が在籍する学校規模の確保が必要であると考えている。このような現状を踏まえ、複式学級の解消や教育環境の整備を考慮し、教育活動のより一層の活性化を目指し、玉野市立学校適正規模化計画をまとめ、それを元に玉野市立学校将来計画の策定を目指したいと考えている。詳細については教育総務課長より説明する。

教育総務課長

玉野市立学校適正規模化計画の策定スケジュールから説明する。令和3年度は未来の学校づくりプロジェクトチームを設置し、市立学校適正規模化計画の草案を作成した。今年度からは適正規模化計画の策定に向け、検討委員会を設置し諮問するなど具体的な作業に移っていく予定としている。検討委員会設置の準備として委員の推薦依頼や公募を行う。委員の構成については、学識経験者1名と校・園長4名、保護者代表7名、コミュニティ協議会代表1名、公募委員2名の計15名としたいと考えている。委員の選定を6月上旬までに完了して、この構成を議会に報告したのち、7月上旬に第1回の会議を開催し適正規模化について諮問する予定としている。1回目の会議では本市の現状や将来にある課題といったものを委員で共有し、そののち素案についての地域説明会やアンケートを実施したいと考えている。地域説明会は中学校区ごとに各1回、計7回の開催を予定しており、7月中旬以降週1回ペースで9月下旬くらいにかけて実施したいと考えている。アンケートについては4年生以上の小中学生、教職員、保護者、地域住民を対象とした大規模なものを予定しており、およそ8,000名弱に用紙やフォーマットを配布できる見込みである。このアンケートの集計解析ができ次第、2回目の検討委員会を開催し、延べ8回程度会議を重ねたのち答申をいただきたいと考えている。答申をいただいたのち、プロジェクトチームで適正規模化計画の案を作成し、議会の下承を得られればパブリックコメントを実施して、議会へ報告したのち、順調に行けば令和6年3月に計画策定となるという想定である。

市長

先般中学校長会から、中学校について現場で非常に多くの課題があるが現場は疲弊しており、早くしてほしいという要望があった。そういう意見を聞いて重く受けとめ、もっと早くしていかなければならないと考えている。この検討スケジュールでは再来年の3月に計画策定となっているが、そこからさらに統廃合などになれば、その先何年かかかることになるのか。

教育総務課長

他市の例を見ると、統合に向けた準備委員会を立ち上げて、校名や制服、校章などをどうするかといった話し合いを進めていく。これが概ね2、3年程度かかっている。

加藤委員

適正化をするということは子どもたちの未来、玉野市の未来によりよい教育を作っていくことであると思っている。市外からの移住を考えた時も1番にあげられるのは教育で、2番は福祉・医療、3番がスーパーなどの充実と4番が文化と聞いている。現在教員の数も減っており、専門の先生に来てもらうのも難しく、玉野市でも先生

が掛け持ちをしていると聞いている。未来を担っていく子どもたちによりよい教育を受けてもらうために、適正規模化は大切な問題になってくると思っている。人間の成長には競争と協働が必要だと考えている。子どもたちは競争の中で人に負けたくないと思う心から力を発揮し、その中から他人を敬う気持を持ち、また協働するところから子どもたちは出来上がっていくと思っている。自分にはない出っ張ったところを誰かが持っていることで他と揃うという経験が子どもにとって大切だと思う。私は小学校から高校まで市内で学んできたが、進学するごとにクラスも増えていった。それにしただがって新たな出会いがあって、その中で友達を敬う気持が大きく育った。子どもたちが相互に刺激しあうのはとても大切だと思っている。中学校では部活動をしていたが、部活動の楽しさや大切さを今の子どもたちにも知ってほしいし、そのためにもこの適正規模化は大切だと思っている。高校ではいろいろな地域から来た人たちから地域性の違いなど新しい発見があり、子どもたちにも切磋琢磨して大きくなってほしい。かつて岡山市でも市街地のドーナツ化現象から小学校の統廃合があったが、とてもいい形になっており適正規模化というのは進めていかなければいけないと思っている。地域を大事に思う気持は地域を離れた時に初めて生まれると教わったが、中学生の頃に父親に連れられて市内の各地域を見て回っているいろんなことを教えてもらい、高校ではこの地域から人が集まってきているのに感動を持った。適正規模化を進めて、皆が皆を敬いながら競争と協働の中で大きくなっていただけたらいいと思う。また中学校校長会の話にもあったが、もし学校が少なくなることで、学校を充実させることに予算が使えるのであれば、充実した学校でこれからの子どもたちがよい教育を受けてくれたらいいと考えている。

市長 玉野市もいろんな地域があって、その地域のことを知らずに大きくなっている子が多いのではないかなと思う。

加藤委員 いろいろなところから友達が来ていると、その地域がどんなところか考えるようになると思う。

三宅委員 加藤委員と同じ意見だが、学校規模の適正化ということに関しては地域の方の関心が非常に高い。これを進めていく中でさまざまな問題も出てくると思うが、この適正化は玉野市の子どもたちの教育を充実させることが第一だと思っている。先ほどの市長の話の中で、中学校長会の要望の話もあったが、学校現場は大変困っていると聞いている。なのでこれも早急に進めていかなければならないと思うが、先ほど言ったように子どもが第一で、次にその地域に住んでおられる子どもの保護者の皆さんの考えをしっかりと聞いて進めていかなければいけないと思っている。長年教員をしてきて、問題が出て悩んだ時は何が一番子どものためになるのかを考えるのが原点だと思う。その辺をしっかりと持っておかなければいけない。先ほど検討委員会のスケジュールが出てきたが、地域の関心も高いので検討委員会で検討した内容はできるだけ情報提供することも大切だと思う。

市長 検討内容を情報提供していくのは大事だと思う。これについて考えていることはあるか。

教育総務課長
市長
太宰委員

この会議を傍聴可能とし、議事録も公開する。
市民に分かりやすくしてほしい。

先ほど三宅委員が言われたように、適正規模化は出来るだけ早くしてほしい。子どもたちにとって何が一番大切かを考えると、小規模でのメリットはあると思うが、中学校の校長先生が陳情に訪れたように、競争意識もなければ社会に出た時の競争原理が働かないし、社会性の育成、大人数の中でぶつかり合いながら人の意見も聞き、自分の意見も言えるようになるのはある程度の規模の数がいないとできないと思う。これから厳しい社会の中に出ていった時に一番困るのは子どもたち本人なので、子どもたちにとってどうすれば一番能力などを発揮できるかを考えると、適正規模の教育環境は必要だと思う。今回は中学校の話だが、小学校においてもそれは言えるのではないと思う。地域の方や保護者の声も聞かなければならないが、まずは子どもたちが一番ということを考えると、スケジュールが発表されたが、そんなにかかるのかという感想を持った。状況は刻々と変化してくるので、長いスパンで考えた時にもっと人口が減ってくるかもしれないし、子どもの数も変化するので、スケジュール自体を出来るだけ早めてほしい。校長先生たちが2校に絞ってほしいと訴えるのは、現場がかなり疲弊しているということに間違いないので、真摯に受け止めて進めていくことも大事ではないかと思う。約30年前、奥玉小が廃校になり玉小に統合されるとき、全体としてそのような会議が開催されていたか詳しく知らないが、私は幼児クラブの会長で、次に小学生になる子どもの親として意見を聞かれた。私はクラス替えもない小さな集団の中より、大きな集団の中で、みんな切磋琢磨しながら、ぶつかり合いながら成長してもらいたい、という意見を言い、奥玉小が玉小に統合されてもいいと言った。周りからは、一度なくすと二度と復活できない、私も卒業生だが、母校に対する思いはないのか、と叱られた。それでも、どれだけ市に届くか分からないが声を上げないといけない。いろいろな意見がぶつかり合っていると思うが、保護者の意見も大切にしていってもらえたらと思う。子どもたちのためというのが一番だということを念頭に置いて考えてほしい。

二宮委員

皆さんと同じ意見と思いながら聞いてたが、私も経験で言うと子どもが野球をしており、野球少年団や中学校の部活に属していたが、現状、少年団も1つの団では成り立たないので必然的に合併するようになるし、野球部の部活ですら合同チームでやっている。まさに同じようなことが、学校の運営でも起こっているのかと思っている。少年団のように簡単ではないだろうが、やはりそういう必要性が出てきているということは当然なのかと思っている。今の人口が減っている状況というのも分かっているし、例えば5年後中学生が玉野市に何人いるかは、今の小学生の人数を見ればほぼ分かるので、10年後というのもほぼわかってる。15年後、20年後というもの、ある程度予測がつくかと思う。その中でどのように運営するのがいいのかは、今考えておかないと、先ほどのスケジュールもあったように一朝一夕にできるものではない。もっと早くという声もあったが、やはり将来、減るということが見えている状況の中では、早急に適正規模化というものを考えてやっていくのが、子ども

のためであり地域のためであり玉野のためになるかと思う。しっかり教育委員としても、保護者という立場でも考えていきたい。

市長

皆さん適正化については前向きに早く進めてほしいという意見だった。校長会でもう一つ言われたのが、2校という話も出たが途中段階を経て最終的にそうなるというのではなく、最終的にこういう姿が描けるのであれば、一気にそこに持って行ってほしいということだった。途中段階でいろいろ経費や手間がかかると思うが、これだけ児童・生徒が減る中で途中でステップを踏むよりは、一度にというようなことも言われている。そういったことも踏まえながら、今後このスケジュールについてはできるだけ早くすることとは私も感じているし、それを踏まえての実際の手続きを進めていかなければならないと考えている。

加藤委員

子どもたちへの適正規模化は早急に、スピード感を持って進めていかなければならないと思っている。最終的に中学校が2校になるのなら、過程を経るよりも初めから2校にしてしまったほうが、例えば、岡山では朝日高校と操山高校が対抗の競技会などがあって子どもたちも母校に対する愛情も深まるし、部活を頑張る力になるので2校案もいいと思いながら見せてもらった。2校に決まったわけではないが、玉野だから出来る学校編成、玉野だから出来る特徴的なものを考えていくと、もっと魅力的な中学校編成が出来るのではないかと考える。過程を考えるより、子どもたちにいいことを考えて、2校で通学には不便だが、こういったメリットがあるというものを出していけばいいかと思う。

三宅委員

中学校の校長会で課題が多く出て来たが、小学校の先生方にも今どういった課題があるのか知っておく必要があると思った。何が子どものためになるかを考えながら、地域の方々が一生懸命学校教育に携わっている。地域なしでは学校教育はなりたないということもあるが、子どものためには何が必要かを地域の方にも説明していただく必要がある。

教育総務課長

スケジュールについてはなるべく早く進めていきたい。

市長

スケジュール案では説明会を終えてアンケートの集計・解析をして、その後会議が約半年以上おこなわれるが内部での会議なのか。

教育総務課長

これぐらいのスケジュールで計8回程度開催すれば、話がまとまっていくかと考えている。内容によっては短くなる場合もあるし、それがもう少し伸びることもあるかと思う。

市長

もしスケジュール的に短縮するのであれば、このあたりが少し早くなる可能性もあるのか。

教育総務課長

審議の内容次第だが順調にまとまっていけば、1、2回省略することが可能だと思う。

市長

検討をすすめていただきたい。

続いて、議事（2）「その他」に関して1点お話しすることがある。先般市長会で瀬戸内市長からの話があり、愛知県立大学の藤原准教授と愛知県立芸術大学の井出教授が来られて、藤原准教授より大学入試へ芸術科目の導入という話があった。芸術教育に力を入れてほしいという話があったので、この場で紹介させていただく。

芸術教育の現在として、昔に比べて授業時間数が大きく削減されており、教員の採用についても量的・質的に低下しているということがあり、教育改革の中で周辺化されている。今後の入試改革で、現状の入試では暗記学力の偏重の傾向があり、共通テストでもまだということで、2030年代に次の改革が見込まれており、そこに芸術を含めた社会性・創造性を問うような科目化を目指したいということだった。その根拠として脳科学をあげており、脳の知性は8つの要素があり暗記科目ではそのうち2つしか使っていないということで、より多面的な能力を育てることが必要になる。海外の例では芸術系の科目が評価の対象のとなっており、アメリカやフランスでも芸術に関しての設問がある。また子どもの心のケアの面から見て、日本の若年層の死因における自殺の割合が非常に高いことも見られ、15歳の子どもの自己肯定感も外国に比べて低い。その上でアートセラピー、アートの効果として自尊感情や感情の解放、思考性といった効果が見られる。地域への愛着においても20代の東京への流出増加率を見ても岡山県も高くなっている。そうしたことの対策として、地域への愛着を高めるということから、地域の産業・文化資源を大事にしていこうという取り組みを始めている。

世界一人当たりのGDPの中で日本が今非常に下落傾向にあり、2019年で25位となっている。日本自体が経済的には落ちてきており、その要因の一つとして情報産業、創造的な産業が、日本の場合育ってない。企業の時価総額を見ても情報産業がトップに入っている。こういったものを育てるのは何かといった時に、アートやデザインを修めた方がそういった企業のトップに立っているケースが目立っている。芸術については心の問題もあるし、能力開発の面でも有用と考えおり、そういった教育を学校でおこなう必要性もいわれている。そのため教育政策の中で芸術教育をもっと充実していくべきと言われていた。前回の総合教育会議で触れたが、いろいろなデータや、こういう専門家の方の意見あるということで、玉野市の教育政策の中で、なかなか時間数を増やすのは難しいと思うが、何か芸術など心の豊かになるような教育を充実させほしいと考えてので紹介させていただいた。

加藤委員

先般宇野のチヌを作る方のワークショップがあった。宇野のチヌがある玉野ならではの取り組みだと思う。ゴミでそれを作ってもゴミの再利用にはならないという意見もあったが、幸せなことに宇野港が瀬戸内国際芸術祭の中に入っている。授業数としてアート部門を増やすということではなく、感覚にうったえるアートが玉野では出来ると思う。玉野には宇野のチヌや駅東創庫もあるし、深山にも自然環境の中から感じるような大きな芸術がいいかと思う。

市長

美術もやらされるのではなく、美しいものを自由に表現したりといったことであれば、もっとできると思う。

教育長

芸術が心を育てるということは、そのとおりだと思う。一律に時間数を増やすなどは難しいと思うが、自分が好きだと思ったものをできるような環境は作っていけるかと思っている。芸術に限らず、自分がやってみたいと思うことをできるような環境づくりとして、教育委員会でもできることはやっていきたいと思う。現在も少しずつそういった取り組みはしているので、社会教育課から説明をさせていただ

く。

社会教育課長

芸術に関すること言うと、トップアーティスト招聘事業として国内のトップアーティストを呼んで、芸術に触れる機会を持っている。また自分らがプレイヤーとして市民コンサート事業ということで、吹奏楽や合唱祭をおこなっている。また活動している方に対する芸術文化振興助成事業をおこなっている。また作品に対しては文化協会の協力をいただきながら、洋画、日本画というような展覧会をさせていただいて、皆さんの作品を展示させていただいている。みなと芸術フェスタ実行委員会という団体があり、この団体が国内の芸術家を呼んで幼稚園3園ほどの園児たちとふれあうという機会をもっている。こういったものが芸術にふれるというものであり、自分で取り組むというのが難しいかと思うが、ある子ども楽級でアート教育として紙粘土細工をやっていたが、その中に障害を持ったお子さんが目を輝かせて取り組んでいたということがあった。まさにこういったことが市長の言われたようなことではないかと思うし、そういったところを伸ばしていく必要が今後あると感じている。

学校教育課長

確かに教科の中では芸術に関する教科の時間数が以前に比べて減ったところではあるが、教科以外のところで、例えば学校の取り組みとして、総合的な学習の時間にSDGsの取り組みをした時に、先ほどもあったがゴミ・廃材を集めてそれをアートにして学校の玄関に置いたり、ボランティアの生徒が学校施設の中で手直しした方がいい所のシャッターに色を塗ったりするなど芸術とはまた違うが、そういうところで芸術的な視点で取り組みをしている。限られた時間数なのでさらに学校行事の中では難しい状況ではあるが、学校教育全般の中でいろいろな視点で、特に芸術に触れる機会、芸術を取り入れるといった取り組みをすることによって、子どもたちに豊かな心や情緒を育んでいきたいと思っている。

就学前教育課長

社会教育課からもあったが、こども芸術アプローチというタイトルで和田、荘内南、宇野幼稚園において、作品や音楽に関わるアーティストに来てもらい2、3回活動してもらっている。子どもたちが喜んで参加しており、特に音楽の関係でドラムのような楽器で音楽に合わせて動いたり、その場にある音によって子どもたちが想像力をふくらませて楽しむような活動が見られ、子どもたちは喜んでいて。こちらは市の取り組みではなく、みなと芸術フェスタ実行委員会の取り組みで、園としては協力できる範囲でおこなっている。

市長

こども芸術アプローチは全市一律ではなく、希望するところがおこなっているのか。

就学前教育課長

みなと芸術フェスタ実行委員会から声がかかって、その年だけではなく継続して同じ園でおこなっている。慣れているということもあり、また慣れているとスムーズに活動ができてますます自分たちがこうしようというところも見られるので、ここは継続してやりたいということで、園を指定されて取り組みをしている。今年度はまだお話をいただいてないが、昨年度はそのように活動されている。

市長

これはすごく面白い、いい取り組みだと思う。できれば全ての園でやって欲しいと思うが難しいか。

就学前教育課長 市の方からは取り組みのフォローができないので、みなと芸術フェスタ実行委員会の方で活動できる範囲でしている。

市長 実行委員会の方からもっとやりたいというような話も聞いた。全部の園でやるの難しいと思うが、幼いうちからそういった芸術に親しむのはとてもいいことだと思う。前向きに取り組んでいただきたい。今年は瀬戸内国際芸術祭もおこなわれ、芸術を近くで見れる環境というのは貴重だと思うので、この機会を生かし芸術活動を推進されるようにしたい。

二宮委員 玉野イコール芸術というイメージはなかったが、今聞いていて考えると、駅東創庫もあったり瀬戸内国際芸術祭をやったり、中央公民館などでよくイベントをやっていたり、ののちゃんのような漫画家がでていたりといろんな芸術に触れる機会がある。案外そう触れてないのかと思うので、新しい取り組みもそうだが今やっていることを上手にPRしていくというところが少し弱いのかと思う。いいものがあるが生かしきれない、知られていないというところだと思うので、それは芸術だけの話ではないかもしれないが、玉野の中でもいいところが市民や市外の方に知られていない。広報の仕方なども考えながら、子どもたちがいいものにふれる機会はあるが、ふれていないところもある。その中でそれがはまる子と、はまらない子がいると思うが、まず、触れる機会を作り、それから触れるような活動を起こしていく、起こしたくなるような広報の仕方也需要かと思った。

太宰委員 広報の仕方もあるかと思うし、芸術もだが玉野に地域性などいいところが多くある。瀬戸内国際芸術祭や自然豊かな魅力など、玉野にいとそれが当たり前でありがたみに気づいてないことがある。出て行って初めて玉野がいいところだったと実感できる。芸術とはなれるが地域への愛着にも目を向けていけるような発信の仕方もあるかと思ふ。ひいてはそれが学力の向上に繋がったり、生きていく力、考えていく力のいろいろな創造性というものを育めるようになって、将来的には住み続けたいとなっていけば少子高齢化の問題も解決できるのではないかと思う。

市長 情報発信は課題と思うのでやっていきたい。

加藤委員 みなとフェスティバルなど、子どもたちがやっているダンスなどを披露する機会がコロナ以前はあった。幼稚園の鼓笛や玉野高校の吹奏楽部などこういった状況で難しいが、玉野商工高校の生徒もボランティアで動いてくれるので、そういったことを大事にしていけば玉野で生活する子どもたちもこれから生きる人間力になるし、いろいろな人に会うことで自分自身のいいプライドが育つのではないかと思う。芸術とは関係ないが、子どもたちがグロスターホームステイに行き帰ってくると、充実感を持って帰ってくる。あの時期に日本とは違うものを見るのはとてもよい力となる。玉野がもっているいいものを大事にしていくことが大切ではないかと思う。

市長 玉野のよさに気づくのは自分が外に出てからとも思う。

先般、鉾立小学校の耐震化の説明会をおこなったが、今後の方針についてはこれから検討となるが、現在アンケートの集計や保護者意見も踏まえて検討していこう

としている。教育委員会の中での議論となってくると思う。

以上